

美しいまち
とけ込む文化

第4回 しまね景観賞



島 根 県

はじめに



島根県知事 **澄田信義**

古代から引き継がれている薫り高い文化や、海、山、川などの豊かな自然に恵まれた本県は、それぞれの地域で個性的な景観を創りだし、四季折々に色鮮やかな表情をみせます。

平成3年12月に「ふるさと島根の景観づくり条例」を制定して5年が経過し、行政、県民及び事業者の景観に対する意識は高まり、県民の皆様による主体的な景観づくりの機運が高揚して、ますます魅力ある景観が保全され、創造されています。

そうした中、地域の景観づくりに特に貢献したものを表彰し、快適で文化の薫り高い島根の景観づくりを推進する一助とするため創設した「しまね景観賞」は、本年度、4回目を迎えました。それぞれの地域で、日頃から熱心に、しかも積極的に景観づくり活動に取り組まれた結果、「しまね景観賞」における内容も年毎に充実してきております。

今後も、「しまね景観賞」が広く景観に対する関心を喚起し、人々の暮らしや地域の発展と調和した魅力ある地域景観の創出に寄与していくものと考えております。

受賞されました皆様には深く敬意を表するとともに、選定にあたり御尽力いただきました「しまね景観賞審査委員」の皆様並びに、この趣旨に賛同し応募をいただきました皆様に対しまして厚くお礼申し上げます。

平成9年2月

選考総評

しまね景観賞審査委員会
委員長 藤岡大拙



今回、4回目を迎えたしまね景観賞であるが、推薦物件数は83件と前回に比べて若干減少したものの、内容的には大変充実したものであった。特に、複数の物件を全体計画に基づき、あるいは相互に調整をはかりながら整備した事例が多く見られたことは大変喜ばしく思う。また、設計競技を経て建設された優れた公共建築物が多くみられたことは、各自治体による先導的な景観づくりの現れとして高く評価したい。いずれの物件とも質が高く、長時間にわたり慎重に審議を重ね、以下のとおり10件の物件・活動を選定した。

大賞に選ばれた「モニュメント・ミュージアム 来待ストーン」は、地域の特産品である来待石の採石場跡地を利用して整備されたものである。そそり立つ石の壁を主役として優れたデザインと巧みな演出が感動を与える空間を生み出している。

優秀賞は4件である。まちみどり部門からは、中心市街地に広場を核としたゆとり空間を創り出した「京店周辺整備事業」と、歴史的資源を活かした「佐田町すばるプラン須佐神話ゾーン整備事業」の2件が選ばれた。両者とも、河沿いの空間をも一体的に整備して潤いのある景観を創り出している。一般建築物部門からは、港湾ターミナルとして个性的で力強いデザインにより新しい景観を創りだした「メテオプラザ」と、環境の改変を可能な限り抑えるよう計画された「金屋子神話民俗館及び案内サイン」の2件である。後者は、建築物とサインが別々に推薦され選定されたが、合わせて表彰することとした。公共建築物においては案内サインを設置することが多いが、優れた全体計画に基づき統一的に整備したこの事例を模範として欲しい。

奨励賞の4件はいずれも建築物である。一般建築物部門から、中層部の透明な空間により海に漂う船をイメージさせる「浜田市世界こども美術館」と、周囲の自然景観に印象的な形態が融合した「羽須美中学校」、堅実なデザインが好ましい「今井美術館」の3件と、個人住宅部門から、伸びやかさが雄大な周囲の景観によく調和している「西林木の家」が選ばれた。

特別賞に選ばれたのは、財団の公園整備活動である。人と自然の調和した自然環境の保全を目的とするこの財団が、しまねの景観づくりに一層貢献されんことを期待している。

最終審査に残った物件はいずれも表彰に値するものばかりであり、景観づくりの着実な拡がりを実感した。今後、さらに多くの県民、事業者が積極的に取り組まれることを期待するとともに、この制度が多くの人々に支持されるよう、引き続き努力していかねばならないと思っている。

大賞

モニュメント・ミュージアム 来待ストーン

所在地

八東郡穴道町大字東来待1574-1

事業主体

穴道町

設計者

株式会社 エリアサイエンス
株式会社 黒川雅之建築設計事務所
株式会社 乃村工藝社
株式会社 荒谷建設コンサルタント山陰支社

施工者

株式会社 増原産業建設
日発工業株式会社
有限会社 大崎工務店
有限会社 高橋造園

概要

工房 石の遊具広場 自由広場
入口広場 トンネル 石の広場
ミュージアム
面積 3.4ha



この事例は審査委員の満票を獲得した文句無しの大賞です。かつての来待石の採石場跡地を再開発した公園で、「地域の歴史と資源を活かした景観」という、いうにやさしく実現はむづかしいテーマを成し上げた地域づくりといえましょう。

来待石を実際に触って体験できる工房や駐車場のある石の広場から「来待ストーン」へ通じる神秘的なトンネルを抜けると、そこには三方を山に囲まれ、石で構成された異空間が広がっています。この演出は大変巧みなもので、トンネルを出たところに、来待石の衝立てをたて、ぱっと目に入る空間の広がりを感じさせるものです。造られた石舞台の上に立つと、聖なる感動さえ覚えます。

主役である20mにもおよぶ、そそり立つ石壁の色を引き立てるために、その空間には新しく建てられたレストランの打ちっぱなしのコンクリートの色以外、他の色は一切排除してあります。採石場としての長い年月と、来待の人々の暮らしの歴史を刻んでいる石壁の色のコントラストとして唯一、コンクリートの冷たいグレーを対比させたその手腕は、見事と言う他はありません。二つを対比させる事で、来待石の温かさ、やわらかさ、やさしさが一層感じられます。夜間にはライトアップされ、コントラストが一段と冴え幻想的な世界を醸し出しています。

島根県の新しい観光スポット、またデートスポットとして、多くの人が訪れるでしょう。
(田村美幸)

京店周辺整備事業

所在地

松江市末次本町外3町

事業主体

松江市

設計者

中電技術コンサルタント株式会社

施工者

清水建設・カナツ技建特別共同企業体

概要

カラコロ広場 面積 1,240㎡
 親水テラス式遊歩道 延長 250m
 京橋 紺屋小路



京店の商店街は、江戸時代から城下町松江の商いの中心として栄えた。しかし、近年は消費者動向の変化により、衰退の傾向にあることから、この歴史と伝統に育まれてきた商店街を再開発して、松江固有の文化と、かつての賑わいを取り戻したいとする官民一体の願いのもとに完成したのがこの整備事業である。

この事業は大きく分けて、京店の北の玄関ともいえる京橋の架け替え、河岸街路と親水テラス式遊歩道及びカラコロ広場の造成からなっている。ここで最も注目したいのは、カラコロ広場の創出と京橋川の修景である。

カラコロ広場は、典型的とも言える裏町を整備開放することによって、京店商店街と京橋川を有機的に一体化している。松江らしい品位のある優れたデザインによって、松江の中心的市街地に新風を吹き込み、新しい都市景観を創り出した。一方、京橋川という松江を代表する景観資源への取組みも、親水テラスの遊歩道などにより、積極的に親水空間を導入するなど、今後の堀川の景観形成へのあり方を示唆する修景によって、現代の水郷都市松江のイメージを創出した。

(矢田清治)

佐田すばるプラン須佐神話ゾーン整備事業

所在地

簸川郡佐田町大字原田737

事業主体

佐田町

設計者

有限会社 チーム・ブー鰐
株式会社 馬庭建築設計事務所
島建コンサルタント株式会社

施工者

佐田建設有限会社
今岡工業株式会社
岩崎建設有限会社

概要

休憩所 収蔵庫 廻廊 資料館
温泉付き研修施設 階段式親水護岸
面積 0.9ha



島根県内の多くの自治体では、地域興しのために、様々な施設整備を行って活性化を図ってきているが、ここ佐田町でも「佐田すばるプラン」を策定して整備事業を展開してきた。その過程で温泉源を探り当て、温泉施設を含めた整備事業に推移してきている。ここでの特徴は、出雲国風土記によるスサノオ神話をコンセプトとして、須佐神社を核に据えた歴史的な地域資源を取り込んでいる点にある。須佐神社から須佐川を挟んで、歴史資料館（スサノオ館）と休憩所、それらを結ぶ須佐川沿いの廻廊、および須佐温泉施設（ゆかり館）などの一体的ゾーン整備を心掛けている。ただ、この基本構想の策定後に温泉源の活用施設が計画されたことから、周辺施設からゆかり館への連続性が欠如した点が残念である。しかし、とくに、須佐川の護岸改修において、自然石による親水性の確保と、木造の廻廊による歩行性の確保がなされ、地域性に配慮した落ち着いた景観デザインが際立っている。望むならば、その水辺沿いの道が須佐神社の参道に通じる宮橋にまで至れば、さらに神話ゾーンとしての魅力が増すだろう。（藤居良夫）

メテオプラザ（七類港多目的ターミナルビル）

所在地

八東郡美保関町大字七類3246-1

事業主体

美保関町、島根県

設計者

高松伸建築設計事務所

施工者

株式会社 竹中工務店広島支店

概要

多目的ターミナル 鉄骨鉄筋

コンクリート造 地上4階

建築面積 4,444.71㎡

延べ面積 6,084.84㎡

竣工 平成8年3月



隕石が落ちたというハプニングを積極的に町おこしに生かしたいということもあって、また、隠岐島への玄関口であるということもあって、通常の機能を超えた象徴的な表現が強く求められた建築作品である。公開ヒヤリング方式の設計競技（コンペティション）によって設計者が選ばれたのであるが、その際、周辺の漁港の風景に調和的に連続する案とこの実施案とが最終的に残り、議論となった。最終的に象徴性を最大限に表現するこの作品が選定されたのであるが、決め手となったのは隠岐への行き帰りに必ず眼にする海側からの景観である。

景観というのは、時に、新しく創り出されるものである。また、敢えて自然と対立する表現としてすぐれた景観が成立する場合もある。記憶に残る景観創出の新しい意欲的な試みとして大いに評価したい。

（布野修司）

金屋子神話民俗館及び案内サイン

所在地

能義郡広瀬町西比田213-2

事業主体

広瀬町

設計者

株式会社 寺本建築・都市研究所

施工者

松江土建株式会社
株式会社 響コーポレーション

概要

博物館 鉄筋コンクリート造
一部鉄骨造 地上2階
建築面積 629.68㎡
延べ面積 715.14㎡
竣工 平成5年3月
案内サイン コルテン鋼製
大きさ／高さ 1.4m 幅 2.2m
竣工 平成8年3月



この金屋子神話民俗館は、能義郡広瀬町西比田地区に伝えられている「金屋子さん」という製鉄と鍛冶の神様の神話をテーマに自治省のリーディングプロジェクト「神話と鉄学の道事業」として5年の歳月をかけ完成したものである。

この施設のある西比田地区は、奥出雲地方特有のいかにも太古を思わせる山里である。この素晴らしい自然景観を生かすため、この建物の設計者は、そっと地面に差し込むように建物を配置したという。

建物の外観はシンプルで、現代的なデザインであり、コンクリートの打放し仕上で統一されている。この建物のシンプル性とコンクリートの素材感の建物の周囲に繁る大木の緑との対比による緊張感が、この奥深い山里に、きらっと光るような魅力的な新しい景観を創り出している。

この度の受賞の対象には、今一つ案内サインがある。この案内板は、鉄へのこだわりから、コルテン鋼の自然発色による錆色で、文字や鷲のシンボルマークは鋼板打抜というユニークな手法による高レベルの彫刻的作品である。まさに鉄の里にふさわしいサインとして評価したい。ただ、専門委員より文字が読みにくいという指摘があったことを付記しておく。
(矢田清治)

浜田市世界こども美術館

所在地

浜田市野原町859-1

事業主体

浜田市

設計者

高松伸建築設計事務所

施工者

株式会社 鴻池組

概要

美術館 鉄骨造 地上5階

建築面積 1,178.06㎡

延べ面積 3,609.38㎡

竣工 平成8年1月



浜田市中心部北方の高台に位置する「海のみえる文化公園」は、その名のとおり、日本海をはるかに見渡せる勝れた眺望の地である。島影のない、すっきりとした水平線、力強い波の動きときらめき、深い青…。特有の雄大な美しさとともに、四季折々、空や大地の変化に伴う繊細な表情をも見せる日本海の魅力が、ここではとりわけストレートに見る者の心に飛び込んでくる気がする。このような広やかな景色の中に、当該美術館は白くシャープな姿を見せている。

中層部に弧を描く櫛状の窓の部分は、「日本海に漂う創造と美の船」という言葉に集約される全体のイメージに大きく貢献するものである。また、ここから、多目的ホールの天井に星のようにちりばめられたダウンライトの輝きが見えるようになっており、夕暮れ時や夜間には、広大な海原と空を背景とした幻想的な景観を目にすることができる。

館内から望まれる市街地や港、海の景色もなかなか晴れやかである。いつもの生活空間も、視点を改めると異なる趣を見せ面白い。子どもたちはもちろん、「子ども心」を秘めた全ての大人たちにとっても、日常をちょっと離れた世界へいざなう「美の船」と言えよう。

(八田典子)

羽須美村立羽須美中学校

所在地

邑智郡羽須美村大字阿須那123

事業主体

羽須美村

設計者

有限会社 ナック建築事務所

施工者

鴻池組・日高工務店特別共同企業体

概要

中学校 鉄筋コンクリート造
 一部鉄骨造及び木造 地上2階
 建築面積 3,108.12㎡
 延べ面積 4,358.72㎡
 竣工 平成8年3月



山間に建てられたしっとりと落ちついた中学校である。指名コンペ方式で選定され実施された作品だという。校庭に面して設けられた緩やかにカーブした二層の回廊がやわらかな雰囲気を醸し出している。打ち放しのコンクリートの仕上げが主体である中に、木材が使用されているのも効果的で、柔らかな空間の印象を与えるのに寄与しているように思えた。周囲の景観に溶け込む秀作である。

ただ、落ちついた雰囲気の中庭に対して校庭側の色彩の扱いが少し中途半端で徹底しないように個人的には思った。すなわち、青、赤、黄色、緑といった原色が鉄骨部分に塗られるのであるが、そう効果があがっていないように思えたのである。色を絞るか、面積をもう少し増やすか、少しものたりないのである。景観を考える上で色彩は難しい。生成(きなり)の色が日本人の感覚に合うというのであるが、もう少し、大胆に色を使う例があってもいいとも思う。(布野修司)

今井美術館

所在地

邑智郡桜江町大字川戸472-1

事業主体

今井産業株式会社

設計者

株式会社 尾川建築設計事務所

施工者

今井産業株式会社

概要

美術館 鉄筋コンクリート造

地上2階

建築面積 292.80㎡

延べ面積 472.00㎡

竣工 平成7年11月



田園地帯に立つ和風建築の美術館である。

道路周辺のスペースは芝と中・低木で緑化され、その緑地の中を、美術館へ続く緩やかなスロープが伸びている。館に向かって左手には松と石を配した日本庭園。正面にも来館者を迎えるかのように整った枝振りを見せる松があり、和様の趣を強めている。

越屋根を頂いた白壁・土蔵造りの外観はシンプルであり、周囲の緑にすっきりと映えている。背景の、円みを帯びた山容ともマッチし、のびやかな田園風景に調和するとともに、清新な存在感を創出している。

江の川のゆったりとした流れを擁する桜江町は、大元神楽（国の重要無形民俗文化財）の伝承地としても知られる所。近年は、産業体験施設などがある森林総合公園「風の国」の整備も進められており、田園文化の拠点としての一層の充実が期待される。当該美術館は、外観、活動内容ともに、そのような土地柄に相応しいものと言えよう。

視覚的に突出した個性を主張する建造物が少なくない昨今、美術の世界へ人々を迎え入れる「ゲート」として、親しみやすいスケールとも相俟った抑制の利いた意匠が気持ちよく感じられる。

(八田典子)

西林木の家

所在地

出雲市西林木町35-3

施工者

有限会社 石川工務店

設計者

龜谷清十有限会社ナック建築事務所

概要

専用住宅 木造 地上1階
 建築面積 207.69㎡
 延べ面積 207.69㎡



この建物は、出雲市郊外の田園地帯に建つ個人住宅である。母屋、車庫、それらをつないでいる渡り廊下で構成され、それぞれに切妻屋根が架けられている。あくまでも水平方向を基調にしたのびのびとした佇まいが周囲のスケールとうまくバランスしている。深い軒や、一直線に伸びた屋根の大きさが大変印象的であり、南側の大きな開口部や、敷地周囲の塀やフェンス等で囲まれていないことが開放的な雰囲気を作り出しているのも気持ちいい。また、建物の背景となるなだらかな曲線を描く北山と水平に伸びる切妻屋根とのコントラストも美しい。全体としては押さえた色調であるが、アプローチに沿って玄関まで続いている袖壁の黄色や白色の明るい色が、建物の表情をさらに豊かなものにしてしている。と同時に周りの景色にもよくなじんでいる。

大規模建築とは違い、住宅個々では周囲の景観を決定づけることはなかなか難しいが、この建物は、背景となる北山や周囲の田園風景と一体になり、まさに絵になる景観を創り出している。（小草伸春）

平田市と木次町における公園整備活動

所在地

大原郡木次町大字山方271-13
(財団所在地)

事業主体

財団法人 ホシザキグリーン財団

概要

宍道湖グリーンパーク 平田市

面積 1.6ha

ふるさと尺の内公園 木次町

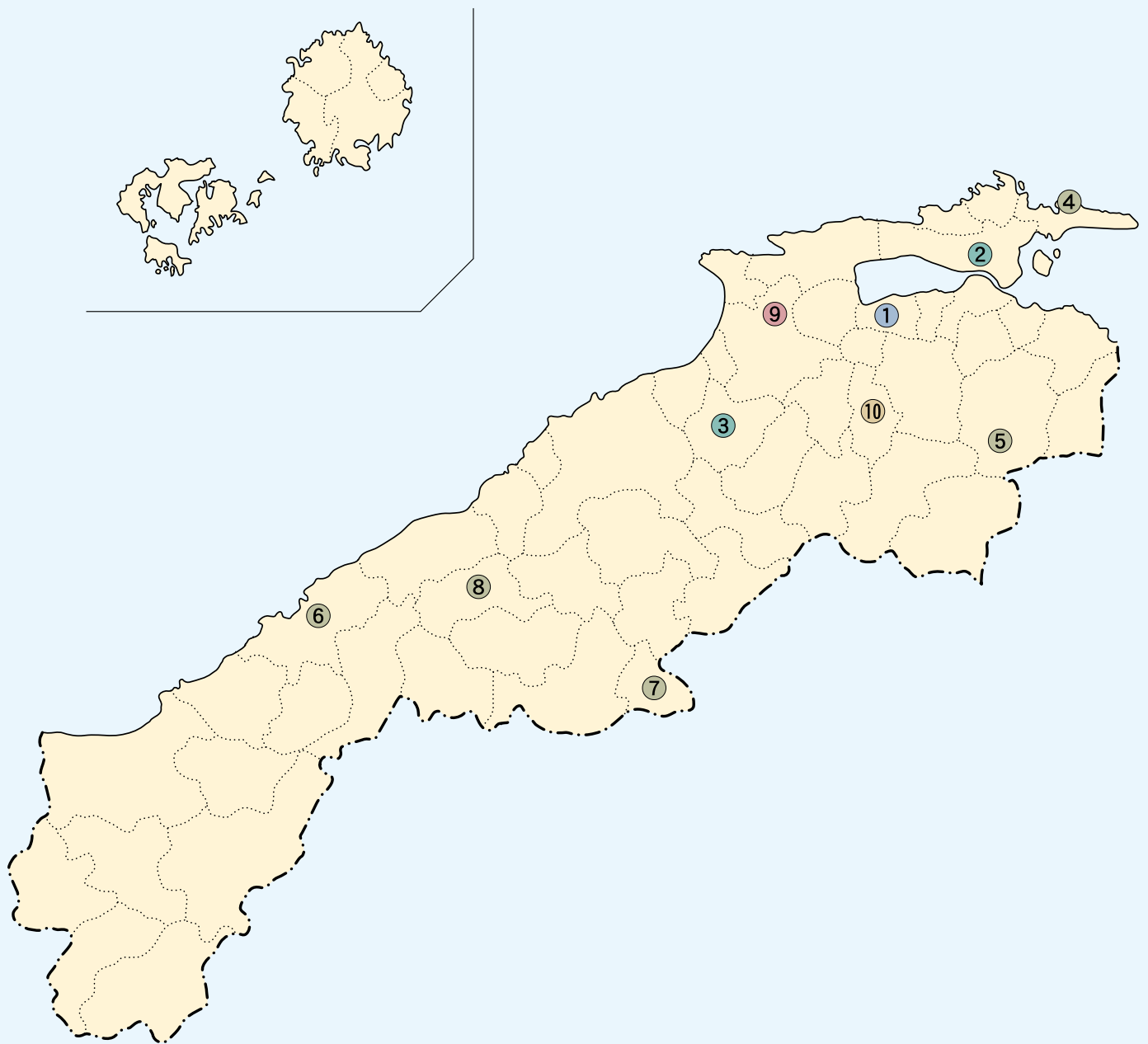
面積 2.7ha



出雲平野の東端、築地松もまばらとなって宍道湖の湖面が見え始めるあたり、広々とした田園の中に緑の砦が現れた。砦の横には北の国からきた白い「貴婦人」達が羽を休める姿も見える。

宍道湖西岸の斐伊川河口一帯は、西日本最大級の水鳥の生息地である。我が国におけるハクチョウ類の南限飛来地としても有名で、冬鳥を中心とした野鳥の宝庫となっている。この貴重な宍道湖周辺の野生動物の保護繁殖を目指して、宍道湖グリーンパークは整備された。この自然指向型の公園を整備した財団は、人と自然の調和した自然環境の保全を目的として様々な活動を行っている。木次町においても、工場敷地とその周辺の森が一体となった「インダストリアル・バードサンクチュアリ」の実現を目指して公園の整備が続けられており、完成する日が待ち遠しい。

地域の人々の理解と協力のもとに、この緑の砦が立派な緑の城となって、大賞を贈る日が来るのが楽しみである。 (菊地弘美)



表彰対象事業・作品

大賞

1. モニュメント・ミュージアム 来待ストーン(宍道町)
事業主体/宍道町

まち・みどり部門 優秀賞

2. 京店周辺整備事業(松江市)
事業主体/松江市

まち・みどり部門 優秀賞

3. 佐田すばるプラン須佐神話ゾーン整備事業(佐田町)
事業主体/佐田町

一般建築物部門 優秀賞

4. メテオプラザ(七類港多目的ターミナルビル)(美保関町)
事業主体/美保関町、島根県

一般建築物部門 優秀賞

5. 金屋子神話民俗館及び案内サイン(広瀬町)
事業主体/広瀬町

一般建築物部門 奨励賞

6. 浜田市世界こども美術館(浜田市)
事業主体/浜田市

一般建築物部門 奨励賞

7. 羽須美村立羽須美中学校(羽須美村)
事業主体/羽須美村

一般建築物部門 奨励賞

8. 今井美術館(桜江町)
事業主体/今井産業株式会社

個人住宅部門 奨励賞

9. 西林木の家(出雲市)

工作物・その他部門 特別賞

10. 平田市と木次町における公園整備活動(木次町)
事業主体/財団法人ホシザキグリーン財団

平成8年度
第4回 しまね景観賞



しまね景観賞表彰銘板
(アルミ合金鋳物製)
22×27

審査委員

小草 伸春

島根県建築士事務所協会会長

田村 美幸

公共の色彩を考える会委員長

八田 典子

島根国際短期大学講師

藤居 良夫

島根大学生物資源科学部助教授

○ **藤岡 大拙**

八雲立つ風土記の丘資料館所長

布野 修司

京都大学工学部助教授

松場 登美

石見地域デザイン計画研究会会長

矢田 清治

島根県建築士会会長

菊地 弘美

島根県環境生活部長

敬称略・50音順 ○印は審査委員長

審査経過

募集期間

平成8年8月1日□～8月31日□...

募集結果

推薦（応募）総数…………… 91通

推薦（応募）物件数…………… 83件

第1回審査委員会（平成8年6月18日）

対象物、募集方法、審査日程、審査基準等の検討

第1次審査（平成8年10月18日～10月28日）

推薦書類、写真により第2次審査の対象となる32物件を選出

第2回審査委員会（平成8年11月18・19日）

選出された32物件について現地審査及び最終審査を行い、10物件を選定

表彰式（平成9年2月19日）

受賞事業・作品の事業主体、設計者、施工者に対して表彰状を、事業主体には副賞として銘板も併せて贈呈

第4回 しまね景観賞 第2次審査対象物件一覧

応募部門	物 件 名 称	所 在 地
まち・みどり部門	木の体験広場 飯梨川河川環境整備工事 * 京店カラコロ広場 空地を利用したお花畑 海老舎 コスモス畑	簸川郡多伎町田儀 安来市古川町 松江市末次本町 平田市平田町 鹿足郡津和野町後田口218 邑智郡瑞穂町田所
土木施設部門	深野川河川改良工事 鶴ヶ城跡遊歩道 玉湯川環境整備工事 * 京店周辺整備事業 ホタル公園	飯石郡吉田村深野 簸川郡多伎町田儀 八束郡玉湯町玉造温泉 松江市末次本町外3町 邑智郡羽須美村下口羽
一般建築物部門	石見銀山大森郵便局 * 佐田すばるプラン須佐神話ゾーン整備事業 六日市町特定公共賃貸住宅 * 浜田市世界こども美術館 中国電力□□寺町変電所 建部の郷の宮処（たけるべのさとのみやどころ） 出雲市水道局庁舎 * メテオプラザ（七類港多目的ターミナルビル） * 金屋子神話民俗館 * 羽須美村立羽須美中学校 五箇創生館 * 今井美術館	大田市大森町字中市西側ハ91-3外 簸川郡佐田町大字原田737 鹿足郡六日市町注連川 浜田市野原町859-1 松江市寺町99-68 簸川郡斐川町大字学頭1683-5 出雲市姫原町536-1 八束郡美保関町大字七類3246-1 能義郡広瀬町西比田213-2 邑智郡羽須美村大字阿須那123 隠岐郡五箇村大字郡 邑智郡桜江町大字川戸472-1
個人住宅部門	中島邸 * 西林木の家 梶谷 健 邸	大田市静間町238 出雲市西林木町35-3 出雲市松寄下町字井原132-3、133-9
工作物・その他部門	* 平田市と木次町における公園整備活動 栄町文化公園モニュメント 灘分地区県営土地改良総合整備事業 完工モニュメント * モニュメント・ミュージアム 来待ストーン * 金屋子神話民俗館案内サイン 北堀川6橋の修景	大原郡木次町大字山方271-13(財団所在地) 隠岐郡西郷町大字栄町 平田市灘分町1810-15 八束郡宍道町大字東来待1574-1 広瀬町西比田213-2 松江市北田町北田東地区

受付順 *は受賞作品

